

池田満さん 福岡県知事賞受賞



J A筑紫は、本店で「第38回J A筑紫ふるさとまつり農産物品評会」を開きました。審査の結果、優秀賞20点、優良賞30点を選出。表彰式では、最高賞の福岡県知事賞に輝いた池田満さんをはじめ、特別賞を受賞した生産者10名を表彰しました。

品評会は毎年、J Aが生産者の意識の向上を図る目的で開催しています。J A管内の生産者が野菜や果物、花など474点を出品。福岡農林事務所福岡普及指導センターの浦康弘センター長を審査委員長に、審査委員13名が品種の特徴・揃い及び品質・商品性などを審査しました。

受賞した池田さんは「収穫して、これは良いと思ったものを出品しました。賞を頂けたのでとても嬉しかったです」と受賞を喜びました。

出品した農産物は、第38回J A筑紫ふるさとまつりで一般公開され、販売。当日は、品評会に出品された品質の良い農産物が購入できるということで、多くの来場者で賑わいました。

購入した来場者は「品評会に出品された農産物の販売を毎年楽しみにしています。今年も美味しくいただきたいです」と笑顔で話しました。

収穫に感謝 来年の豊作を祈る



12月12日に、太宰府天満宮境内の余香殿で、第62回筑紫地区農業祭が開かれました。今年度の収穫に感謝し、農業関係者の健康を願いながら、次年度の豊作を祈るため、毎年この日に開いています。

農業関係者や行政関係者など約220名が参加。祭典では、巫女（みこ）による神楽奏上「鈴の舞」や参列者の玉串拝礼などで収穫の礼を尽くしました。

式典では、農業振興に貢献した6名を功労者として表彰しました。

白水組合長は「今後も筑紫地区の農業振興に尽力していきたいです」と挨拶しました。

不要農薬・廃資材を適正に処理



JA筑紫の白水清博組合長と職員は、12月13日に春日市の春日市立大谷小学校を訪れ、新米を使ったおにぎりを児童と味わいました。

おにぎりは、白水組合長や職員が年間を通じて児童へ米作りを教え、10月末に稲刈りをした「元気つくし」15kgで作ったもの。児童は待ちきれない様子で、炊き立ての米を覗き込み、慣れない手つきでおにぎりを握りました。「お米が甘くてモチモチしている。いつもより何倍も美味しい」と話し、おにぎりを頬張りました。また児童から白水組合長へ、米作り指導のお礼として、感想文をまとめた文集やポスター、歌が贈られました。

白水組合長は、児童たちに「おにぎりがとても美味しかったです。これから農業にさらに関心を持ち、応援してほしいです。今後も、米作りの授業が続いていくように願っています」と笑顔で話しました。

この授業は、大谷小学校の5年生を対象とした「総合的な学習の時間」の一環。JAは児童の食農教育をサポートする目的で、15年以上関わっています。毎年、白水組合長が自ら小学校へ出向き、田植えや稲刈りを児童へ教え、田んぼの管理などを行います。学校側は「自分たちで育てた米を味わう経験はなかなかできない貴重なもの。この経験が、食べものを大事に食べる気持ちに繋がれば嬉しいです」と効果に期待します。

健康的な食事で冬を乗り切る



JA筑紫女性部は、11月24日～平成30年1月25日まで各地区14カ所で平成29年度冬料理講習会を行っています。健康的な食事で冬の寒さを乗り切ろうと、毎年企画しています。

上大利公民館での講習会は、12名のJA上大利女性部員が参加。今回のメニューは、「豚もも肉の切り餅ロール」「ブロッコリーのとろろポンズ」など5品。部員の各家庭から持ち寄った白菜や瓜、大根などの漬け物と共に、出来上がった料理を全員で試食しました。部員の皆さんは「とても簡単に作ることが出来ました。ぜひ自宅でも試してみたいです」と笑顔で話しました。

尙三宅牧場 ツアー担当者の視察を受け入れる



福岡県筑紫野市の尙三宅牧場は、12月14日に商社や旅行会社、通訳会社などの視察を受け入れました。生産者の三宅貞行さんは、「博多和牛」を通じて福岡県の食産業の魅力をPRしました。

この視察は、公益財団法人福岡観光コンベンションビューローが主催。観光やビジネスで日本国内外から同県を訪れた人向けのツアーなどを企画する担当者34人が参加しました。三宅さんは、自ら牧場内を案内し、参加者へ飼料や生育環境などを話しました。参加者からは、「博多和牛」を育てる上でのこだわりや輸送方法など、多くの質問があがっていました。参加者は「牧場へ来て牛を見ることは普段できない経験。実際に生産者から話を聞き、とても勉強になりました」と話していました。

また、三宅さんの娘の静恵さんが営む合同会社三宅牧場まきばも視察。「博多和牛」のステーキ肉や、自家産の米を使ったおにぎりなど、人気商品を買う参加者の姿も見られました。

三宅さんは「今回の視察で、福岡の食産業の魅力や、地産地消の良さを、多くの人知ることができたら嬉しいです」と話していました。

チャリティ餅つきを行いました



JA筑紫二日市支店・二日市東出張所は、二日市支店の駐車場で「チャリティ餅つき」を行いました。この活動は、JAが取り組むふれあい活動の一環で、地域の皆様にJAを知ってもらおうと毎年開催しています。

今回は、九州北部豪雨を支援するための募金活動を行いました。また、地元産のもち米を使い、理事や職員が心を込めてつき、出来たての餅を容器に入れて配布しました。

利用者の方は「少しでも支援に協力できたら嬉しいです」と話していました。

ゆめ畑太宰府店が12周年大感謝祭を開催



JA筑紫農産物直売所ゆめ畑太宰府店は、利用者の皆様へ日頃の感謝を込めた「12周年大感謝祭」を行いました。

イベントは、数量限定商品の福岡県産の肉や新鮮な地元の野菜などを販売。店内は、イベントを心待ちにしていた買い物客で賑わいました。買い物に訪れていた利用者の方は、「新鮮な野菜や肉を購入できて、嬉しかったです。また、ゆめ畑へ買い物に来たいです」と話していました。

伝統あるしめ縄づくりを体験



JA筑紫は12月16日、本店で「第4回JA筑紫ふれあいしめ縄づくり体験」を開きました。

農産物直売所ゆめ畑の出荷者など5名を講師に招き、リース型のしめ縄に挑戦。参加者は講師の慣れた手つきを見習い、日頃触りなれていない藁で昔ながらの伝統あるしめ縄づくりを体験しました。

参加者は「日本の伝統の素晴らしさを体験できて良かったです」と笑顔で話していました。

この取り組みは、JAが取り組むふれあい活動の一環。広報誌やホームページなどで募集し、集まったJA管内の地域住民36名が参加しました。

城戸剛さん 大野城市長を表敬訪問



大野城市の城戸剛さんが12月22日、大野城市の井本宗司市長を表敬訪問しました。城戸さんは、JA筑紫青壮年部に所属し、来年2月に開かれるJA全国青年大会の「JA青年組織活動実績発表の部」に、九州沖縄地区代表として出場します。

城戸さんは、10月の福岡県大会と12月の九州大会で、青年部活動のマンネリ化や盟友の参加意識の低下を改善するため、親子サツマイモ作り体験や、6次化商品「サツマイモコロッケ」の製品化、学校給食への納品などに取り組んだことを発表。両大会で最優秀賞を受賞し、全国大会へ進出を決めました。

城戸さんは井本市長に、これまでの青壮年部の取り組みや発表の内容について報告。また、サツマイモコロッケを用意し、実際に試食を行いました。井本市長は「サツマイモを使ったコロッケは、甘くなめらかな口当たりで美味しいです。全国大会でも力を発揮して欲しいです」とエールを送りました。城戸さんは「全国大会まで進めたことは、多くの方の支えがあってこそ。皆さんに良い報告ができるように、堂々と発表をしたいと思います」と大会での健闘を誓いました。

女性部で正月のフラワーアレンジメント教室を開催



JA筑紫山家支店女性部「ゆめカレッジ」は12月26日、フラワーアレンジメント教室を開きました。華道池坊の井上律子さんを講師に迎え、竹の筒に松やユリ、カーネーションなどを生け、正月らしいフラワーアレンジを制作。

参加者は「綺麗に花を生けることが出来て嬉しいです。ぜひ自宅の玄関に飾りたいです」と話していました。